

団体名 NPO 法人コンカリーニョ

事業名 北方圏の“Alive 音楽” JPP 招聘コンサート&ワークショップ

実施日 2010年11月7日 ペリマンニ音楽公開ワークショップ

2010年11月9日 JPP ヤルヴェラン・ピックペリマンニットコンサート



企画総括

北海道と同じ北方圏に位置するフィンランドの舞台芸術、伝統音楽を体験してもらうための「北方圏の”Alive”音楽 JPP コン서트とワークショップは、幅広い年齢層の方々に参加していただき、フィンランドの音楽や文化に興味・関心を持って接していただくことが出来たと思います。

特に 7 日に行われたペリマンニ音楽（フィンランドの伝統音楽のワークショップ）参加することによって得られたものは技術ではなく国境を越えたコミュニケーションの大切さを学ぶことであったと思います。JPP のメンバーが全員そろって講師となった贅沢なワークショップ。参加者のほとんどは今までペリマンニ音楽に触れたことの無い方々でした。参加者によって持ち寄られた楽器もフィドル・アコーディオン・カンテレ・トランペット・太鼓・ホイッスル・二胡・馬頭琴・ギター・アンデス・ピアニカなど多岐にわたっていましたが 3 曲ものフィンランドの伝統曲を演奏することが出来ました。（楽譜なし。ペリマンニ音楽は元々農民の音楽であったため、耳で聞いて音楽を演奏してきたという伝統があります）参加者はもとより公開ワークショップでしたのでその見学者も最終的には手拍子で参加、すばらしい国際交流ワークショップとなりました。また、メンバーの提案によりワ

ークショップ参加者は 9 日のコンサートの舞台でも共に演奏することとなり、当日は改めて楽屋でのリハーサルを行い、本番では舞台へ上がって 3 曲全てを演奏。観客とともに感動のワンシーンを作り上げることができました。



今回の企画は NPO 法人コンカリーニョ主催でありながらコンカリーニョを劇場として使用しませんでした。札幌市生涯学習振興財団の共催と札幌市中央図書館の協力を得てコンカリーニョが持つソフトの力をアウトリーチに注いだ企画となりました。会場を生涯学習センターちえりあと札幌市中央図書館に置くことで過去の企画と比べ物にならないほど多くの不特定多数の市民に触れてもらえることが出来たと思います。しかし反面企画が分不相応に大きすぎることにより個々の企画一つ一つに対する広報宣伝活動が行き届かない・広報の焦点が絞りきれずメディア戦略に苦勞したなど、大きな反省点として課題を残しました。

しかし興味・関心を持ってもらうために間口を広げ、そこから舞台芸術の持つリアルな豊かさを感じてもらうための方法としては良策であったと思います。

NPO 法人コンカリーニョ 高橋正和